

## 採 摭 餘 録（其四）

久 内 清 孝

K. HISAUTI: Botanical Notes (IV)

## 〇きよすみうつぼ追記

本誌 XVI 卷 2 號ニきよすみうつぼ (*Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc.) ノ事ヲ書イテ置イタガ、其後吉永虎馬氏ヨリ「土佐成川村」ハ伊豫ナルベント教ヘラレタ。正ニ其通りデアルカラ茲ニ記シテ氏ノ好意ヲ謝ス。マタ、同時ニ吉永氏ヨリ土佐ニ於ケル產地トシテ朴ノ川山、高岡郡東津野村大古味山及ビ阿波國海部郡川上村轟瀧森ニテモ採集サレテ居ル事實ヲ知り得タ。

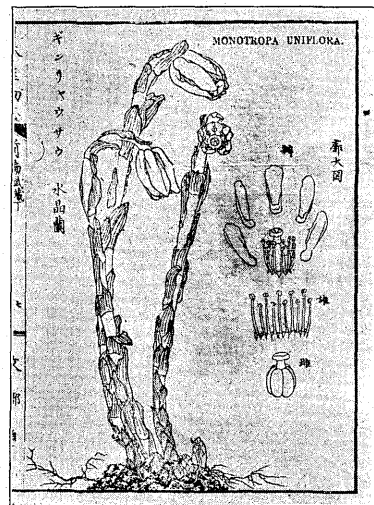
〇いうれいたけもどき (*Monotropa uniflora* L.) 追記

従來 1 種トシテ扱ハレテ居タモノガ 2 屬ニ分レルコトニナリタル爲、原寛氏ハいうれいたけノ名ヲ *Monotropastrum* = 殘シ、*Monotropa uniflora* ヲいうれいたけもどきト命名サレタ。ソコデ混亂ヲ防止スル爲、今後ハ其通りニスレバヨイガ文部省刊行伊藤圭介著日本產物志武藏部下、(1900) p. 7ニぎんりやうさうニゆうれいさうニゆうれいたけトシテ圖說サレタモノハ明カニ *Monotropa uniflora* デアル、而シテ、相當明瞭ナ解剖圖デアル。其圖ハ子房ガ明瞭ニ圖解シテアツテ、恐ラク一番古イ正確ナ圖ノト思ハレル。

尙本誌 2 月號 (XVI: 2) ニ書イタ記事中津山尙氏ノ注意ガアツタノデ訂正ノ必要ヲ認メ、3 號 p. 184 へ訂正表ヲ出シテ置イタ。

## 〇憶トハ何ンゾヤ

之ガ大和本草第十一卷デ、あをき (*Aucuba japonica* Th.) ノ漢名トシテ用ヒラレタ事ハ周知ノ事實デ「實ノ大ナル事棗ノ如ク冬熟シテ紅也」ト云フ記事ニ



日本產物志所載いうれいたけ即今ノいうれいたけもどきノ圖 (縮寫)。

*Monotropa uniflora* L. illustrated  
by Dr. Keisuke Ito in the  
Nippon Sanbutusi (1900).

徴スルモ疑フ餘地ガナイ。サテ、此ノ字デ呼バレタ木ガ横濱市神奈川區、洲崎神社ノ境内ニ神木トシテ古クカラ存在シ、其爲舊神奈川青木町ノ町名ガ出來タト傳ヘラレ、其木ガ大木ダト云フ事ヲ聞イタノデ、ソレハあをきノ大木ガアリトスレバ大變ナコトニナルカラ、早速實見シテ見タラ、ソレハたぶのきデアツタ。元來櫓ノ字ニ今日何レヲ指スカ不明デアルガ、曾テ之ガあをきニ當テラレタ事ハ事實デアリ、日本紀ノ「西ノ海 方原」ノ櫓ガ何ンデアルカト同様、今日判斷スベクスペモナイ。其後桃葉珊瑚ガ用ヒラレテ居ルガ、質問本章第4卷ニハ福建ノ盛煥文ノ説トシテ植楠樹ヲ用ヒテ居ル。此邊ノ事情ニ就イテハ故白井博士ガ園藝之友第17年(1922)1號ニ詳述サレテ居ル。然シあをき屬ハヒマラヤ、支那、日本ニアリ、支那ノモノハ *Aucuba chinensis* BENTH. デアリ、日本ノハ *A. japonica* TH. デアルカラ、日本ノモノニ漢名ノ無イノガ當然デアルカラ、一切ノ漢名ヲ清算シ、若シ漢字ヲ用ヒタケレバ大和本草ニ「青木トモ云」トアルカラ青木トシタラヨイ。漢名ヤ和名ハ萬國命名規約ノ拘束ヲ受ケナイカラ、科學トシテノ植物學トハ無關係カモ知レナイガ、日本人トシテハ當然觸レナケレバナラナイ事デアル。學者ハコンナ事ヲシテ居ル暇モ無カラウカラ、植物ノ好キナ日本人ハ宜シク此方面ニ眼ヲ向ケラレタイ。敢テ故ヲ溫ヌル意デモ



みやまみず自生ノ現場ト筆者。

*Pilea petiolaris* in Prov. Izu.

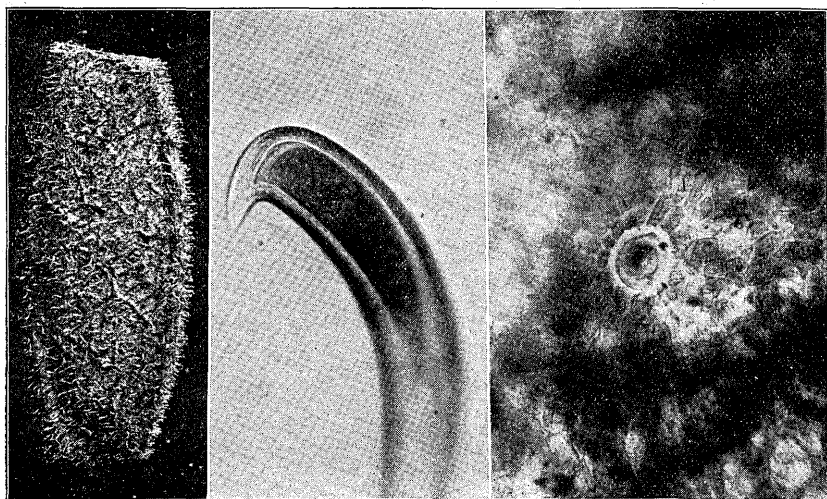
無ケレバ、奇ヲ好ムノデモナイ事ハ日本人ニハ判ツテ頂ケルト思フ。

### ○みやまみづノ一産地

各處ニ貯藏サレテ居ルみやまみづノ標本ヲ調べテ見ルト、皆本邦西部ヲ中心ニシテ居テ、關東近クノモノハ餘リ知ラレテ居ナイ様デアル。然ルニ、昨年秋東京科學博物館採集會ノ折、伊豆日金峠ノ澤デコノ大群落ヲ見付ケタ。發育狀態ハ非常ニ良好デ、2米ニモ達シー見別物ノ様ニモ見エタ。發育ノ良好ナ爲カ、節間ノ中部以下ガ上部ニ比シ著シク發達シ、矢竹ノ變種ノらつきようちくノ莖ヲ想起セシムルモノガアル。地點ハ精シク述ベタイガ、其保存ノ爲遠慮スルコトニスル。

### ○みそなをしノ節莢果

昨秋東京植物同好會ニ參加シテ、駿河ノ沼津市ノ公園デアル千本松原ヲ馳驅



左ヨリみそなをしノ節莢ノ一片、毛ノ擴大、毛痕（何レモ擴大）。

A fragment of loculus of *Desmodium caudatum* and its hairs.

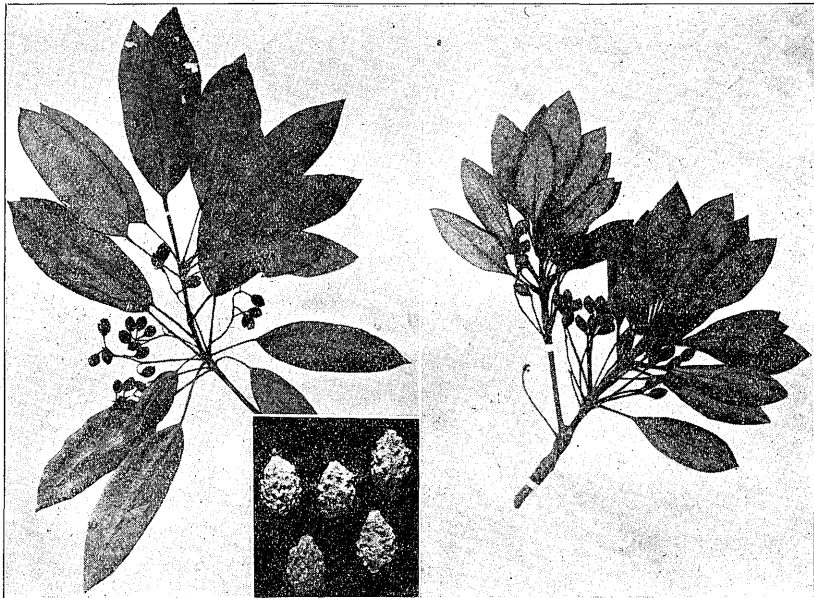
From left a fragment, hair & hair base.

シテ來タラ、着衣ニ紙鑢ノ破片様ノモノガ附着シテ居テ、之ヲ無理ニ除去スルト絨面ノ毛ガ一所ニトレテ來タ。ヨク見ルト、ソレガみそなをし (*Desmodium caudatum* DC.) ノ節莢ノ破片デアル。更ニ之ヲ擴大鏡デ見ルト、其面ニハ恐ロシイ鉤狀毛ガ密生シテ居ルノガ判明シタ。實ニ剛イ毛デぬすびとはぎノ節莢ノ毛ノ様ナ、上品ナモノデハナイ。沼津ノ耆宿山出半次郎氏ニヨレバ方言ヲ「ヒツツベッター」ト云フ由、實ニヨク穿ツタ名デアル。他物ニ附著シテ分布スル

モノ、例トシテハ最モ確實ナモノ、一デアラウ、依テ其寫眞ヲ提示スルコトニシタ。

### ○ゆづりは屬ノ一新種

マタ上記ノ千本松原ヲ歩キ廻ル内、澤山ノひめゆづりはニ實ガ生ツテ居ルヲ見タガ、其内ニ葉ガ薄ク鋭尖頭デ、葉柄ガ長ク、果實ヲ有スル花序ノ傾下シ、



(左) するがひめゆづりは (新種) ト其核果。

(右) ひめゆづりは。

(Left) *Daphniphyllum pendulum* HURUSAWA sp. nov.

(Right) *D. Teijsmanni* ZOLLINGER.

果實モヤ、小サナ木ヲ見付ゲタ。依ツテ之ヲ斯道ノ大本山ヘ提出シタ處、中井教授ノ命デ、古澤理學士ガ研究ノ結果新種ト決定シ *Daphniphyllum pendulum* HURUSAWA ノ學名ガ出來タ。何レ同氏ガ其名デ發表スル筈ダガ、取敢ヘズ廣告シテオク。序ニ和名ヲするがひめゆづりはトシクラドンナモノダロウ。

### ○しらいとさう武洲ニ産ス

本年 4 月 21 日、東京科學博物館採集會ノ折、埼玉縣下名栗川流域川又附近ニ於テ、其多量ニ産スルヲ確認シタ。全ク意外ナ事實デアル。勿論マダ花ハ咲イテハ居ナカツタ。